

図書館だより

No.47(平成23年3月1日)

〈目次〉

希望こそ人生で最も大切なもの
 - 学院創立・復興にみる教訓 - ……1
 図書館懸賞作品コンクール入賞作品
 「社長・溝畑宏の天国と地獄
 - 大分トリニータの15年 -」を読んで…2
 「『性別がない!』ということ。」を読んで…3
 水木しげるの昭和史……………4
 図書館と私……………5
 図書館ホームページのリニューアル…6
 平成22年度図書館優秀利用者表彰について…8

巻頭言

希望こそ人生で最も大切なもの - 学院創立・復興にみる教訓 -

理事長 鶴 素 直

私立学校はどの学校も創立期にはさまざまな奮闘の歴史がある。本学院も同じである。お金も物資もない中で、創立者鶴虎太郎の教育理念や情熱に共感した人たちが集まり、土地・建物・設備・人を求めて奔走した。教育理念に賛同する人たちや地域の人たちの支援もあって、徐々に学校らしい形が形成されていった。

昭和2年に広島市大手町に「広島高等予備学校」として創立した本学院は、その後工業系の専門学校に形を変え、次第に軌道に乗っていく。ところが昭和20年8月6日、原爆によって学校は一瞬にして灰じんに帰したのである。

そのころ鶴虎太郎は肺炎にかかり、疎開をかねて山県郡新庄村で療養していたため、付き添っていた妻と共に被爆を免れたが、次男と3人の娘は原爆死した。犠牲になったのは学校を守っていた子ども達であった。2日後に広島市内に入った鶴虎太郎は跡形もなくなった校舎跡に立ち尽くしたという。その時鶴虎太郎は74歳であった。失意のどん底にありながら、心の痛手をいやす間もなく、学校再建に向けて走り回った。

見渡す限りがれきの山と化した広島市内での復興は、絶望的だった。少しでも早く授業を再開しようと、広島市郊外に活用できる物件はないか探し求めた。その結果安芸郡奥海田村（現在海田町）に、兵器工場に携わっていた女子工員が使用していた女子寮があることがわかった。幸いに、鶴虎太郎の教育精神を尊敬する「奥海田村村長中本儀三氏」の協力もあり、そこを借り受けて復興に着手したのである。

昭和21年1月10日頃には授業が再開されたと卒業生は証言している。最も早く復興した私立学校ではなかっただろうか。

本学院発展の歴史を振り返ってみて、創立者鶴虎太郎の強固な精神から教訓を学ぶことができる。創立時にしろ、被爆後の再建にしろ、若者に対する教育への情熱は熱く、それが学校創立また復興への強い希望を維持させてきたのである。

夢や希望があればつらくとも忍耐強く歩き続けられる。努力が人間を前に進ませ、願いどおりには実現できなくとも、やりがいや喜びとなって帰ってくるものである。希望がなければチャレンジしないだろうし、チャレンジしなければ何も生み出すことはできない。もし私に人生を生きていく上で最も大切なものは何かと問われれば、私は希望と応えるであろう。

創立者が学生・生徒達に持ち続けた教育への情熱、教育実践を次の世代の人たちが建学の精神「教育は愛なり」としたのである。学校はどの学校も同じようなことを教えるが、その教え方に建学の精神に基づく本学院の特色が現れるものであろう。

図書館懸賞作品コンクール入賞作品

〔最優秀賞〕

「社長・溝畑宏の天国と地獄 —大分トリニータの15年—」を読んで

現代社会学部 2年 岡 村 惇

溝畑宏という人物を私は知らない。いったい、誰で何をしている人なのか。大分トリニータ、それは知っている。J2のプロサッカーチームだ。でも、はっきりいって興味がないチームだ。それは広島にもサンフレッチェというチームがあるからかもしれないが、強いチームという印象もない。そのチームの社長をしていた人だということは分かった。いったい、この人は何なんだ、と思いながら読み進めるうちに、私はこれまでプロサッカーチームの経営がこんなに大変な事だとは知らなかった。どうせ、溝畑という人物もどこかの大金持ちで、片手間にサッカーチームの社長をやっているのだろう、というくらいにしか考えていなかった。でも、この人は違った。東大を卒業して自治省の官僚から、大分県庁に出向になった際、地方を元気にしたい一心で、大分にトリニータをつくと宣言して、多くの反対や試練を全てひとりで受け入れ、J1昇格や日本一まで導いた人物である。ただ、今は大分トリニータはJ2に降格となり、溝畑は民主党政権となってから、現在観光庁長官である。しかし、トリニータの社長としては社長失格を突き付けられ、経営危機の責任追及の的にまできた人物である。私には正直言って、何がそこまで溝畑を大分トリニータに夢中にさせるのかわからなかった。ただ、どんな名誉や権力があってもこの人には関係ない、自分が信じることに向かって、そのためなら何でもやりきることができる人。どんな猛反発や逆風が吹き荒れようと、そのあとにチャンスがやってくることもまるで計算づくのように、クールに乗り切ってしまう。ただ、周りを見ない分、敵も多い。でも、この人を信じて協力する人も大勢いる。ただ一言、すごいと思った。

トリニータの最初の地元企業の大口スポンサーとなった朝日ソーラーの林社長に、「お前、尻だせるか」と初対面に言われ、溝畑は、「はいっ、社長」と言って本当に尻をだし、いきなり4,000万円獲得である。Jリーグに入会するのも、チームの経営にも多額の資金が必要だ。それを溝畑は人脈を頼りに自らの足で自分の思いを熱く語り、溝畑というひとりの人間を信じて、その後も、大分に縁もゆかりもないペイントハウスの星野社長が大金を資金提供したように、溝畑を助ける人が現れる。しかし、その度にまたやってくる大きな逆境。私が溝畑氏だったら、恐らく、1度目の逆境ですでに尻尾を巻いて逃げているだろう。でも、この人は違った。講演で、「辞めろと言われて辞めていたら、チームは解散していただろうな。諦めなかったからこういうチャンスがくるんやな、義理人情やな」と言っていた。この人に対する評価は賛否両論あるのだろうが、私はみんなが身の丈程度のことだけを考え、身の丈程度の行動しかなかったら、それ以上の発展はないように思う。大きなリスクの先にもっと大きなチャンスや利益があるかもしれないならば、それに向かってみる、こういう溝畑氏のような人も必要なのではないだろうか。

現在、大分トリニータは、大手スポンサーの撤退や選手、監督の件費などがかさんで経営が悪化し、Jリーグから6億円もの借金をしており、溝畑氏は前社長として責任追及されていたが、これについては、責任追及することはできないと結論付けられたようだ。

この本を読んで、溝畑氏の今後の行動に大変興味を持てた。私も社会に出たとき、多くの逆境に立たされるであろう。でも、そのあとにやってくるチャンスをちゃんとつかめるような人間になりたい。

〔優秀賞〕

「『性別が、ない!』ということ。」を読んで

現代社会学部 2年 高田 喬介

私が今回読んだのは新井祥さんの『性別が、ない!』ということ。』という本です。著者である新井祥さんはインターセックスという男性でも女性でもない性別の方で、この著書はそのことについてのエッセイです。

「インターセックス」というのは男性でも女性でもない中性のことで、「半陰陽」とも呼ばれます。私自身はこの本を読むまで「インターセックス」という性別をよく知りませんでした。「両性具有の人が存在している」という程度の認識しかありませんでした。

この著書は「インターセックス」について固い文章で書いてあるのではなく、新井祥さん自身のこれまでの人生について書きながらそれに交える形で「インターセックス」について書いていっている形式です。まず、新井祥さん自身がどういう人間であるか、というところから話は始まります。新井さんは最初女性として生活していました。小学生から中学生までの間は普通に女子学生として生活をしていたのですが、高校生になったころから身体に変化がでできます。今まで女性的だった体形から徐々に男性的な身体的特徴があらわれるようになったそうです。これは分泌されるホルモンの変化が原因でそうなるそうです。女性ホルモンより男性ホルモンが多く分泌されるようになると、身体だけではなく嗜好や価値観なども男性的になるそうです。その当時インターネットなども広く普及されていなかったため、それがどういうことなのか、ということを知るのは困難で、2002年に染色体検査を受ける31歳まで女性として生活してきたとのことでした。

それまで女性として生きてきた著者には結婚経験もあり、その間は完全に女性化していたそうで、その時期はものすごく女の子の子育てした時期でもあるそうです。

そして、著者は2002年に染色体検査をし、見切り発車的に男性ホルモンのホルモン注射を開始したそうです。そこから身体を徐々に男性的な身体にしていったのだそうです。

この著書を読み「中性」という性別が漠然と男性と女性の両方の性別的特徴をもっただけではないと知りました。当然と言えば当然なのですが、中性であってもやはり戸籍では女性が男性かは選べないといけなないので、やはり、そこから生じる問題も多々あります。著者のように女性としての戸籍で女性として生活したり、男性の戸籍で男性として生活していたとしても、ホルモンのバランスですぐ身体に影響が出てしまうので大変です。ホルモン注射や手術などをやっても完全に安定するわけではないようで、その後も治療を続けながらでないとホルモンバランスは崩れてしまうなど、大変なようです。

「インターセックス」という事を公表して作家をしている人は少ないようで、新井祥さんのような方は珍しく、とても貴重な情報源の一つだと感じました。また「インターセックス」のことというが性同一性障害や性ホルモン、それに関する女性化男性化についても参考になる事が多くあり、とても読み応えがある作品でした。

著書のブログの記事が載せてあったり、巻末では四コマ漫画でとても分かりやすくホルモン注射に関して説明がなされており、勉強になったことも多くありました。また、とても読みやすく面白かったです。

そして、著者の他の作品も読んでみたいと思いました。

〔優秀賞〕

水木しげるの昭和史

現代社会学部 2年 加藤 有 希

これまで、昭和史を著作として示した人物は数知れない。有名どころでは歴史小説家の半藤一利が書いた昭和史などがあり、発行部数も多い。また、タイトルを「昭和史」とせずとも、昭和の歴史を振り返った著作はきわめて多い。これらの事実は、昭和という時代が、日本人の精神に与えた衝撃の巨大さを物語っている。歴史家が、作家が、ジャーナリストが、それぞれに昭和を振り返り、経験と感慨をまとめてきた。それはまさに、価値観の逆転と、再考を促進させる変事だったのだ。今まで信じてきたものが間違いとされ、否定してきたものが是とされた。歴史家を志す以上、この時代の考証は、避けることはできない。だから僕は昭和の歴史を記した著作を繰り返し読み、昭和史の根幹を掴もうとしてきた。

それは容易な作業ではなかった。それでも時間をかけて多くの著作を読みあさり、昭和史の大まかな部分を掴むことはできた。しかし、大まかな部分を掴めても、当時の人びとが感じていた、国民感情の様なものを掴めなかった。それはひとえに、多くの著作が「知識人」によるものだったからにほかならない。当時からそれなりの社会的地位を持った人間は、従軍経験もなければ、空腹を味わったこともない。僕は、本当につらい思いをした人間の、生の感慨を知りたかった。そんなジレンマの中で出会った本が、水木しげるの書いた『昭和史』だった。

この作品ほど飾りなく、昭和日本の栄枯盛衰を描いた作品は、過去になかったと思う。この時代は、成人男子の多くが戦争に召集され、過酷な戦地で没した。両親や、恋人や、子供の名前を叫びながら。水木しげるは、その現場にいたのだ。一兵士として戦争に参加し、空腹を耐え、唯心的に戦った。まったく恐ろしいことだと思う。本当は家で寝ていたいのに、人殺しに加わらなければならない。特に相手が憎いわけでもなく、命令だから人殺しをさせられる。恐ろしいことだ。それが当たり前であったなど、今からすれば考えられない。

知識人たちの著作は「聞いてきたような話」という印象をぬぐえず、感銘を受けることができなかった。対して、水木しげるの著作は、当時の過酷さと、兵士の苦痛を、鮮明に描いていたように思う。当時の人びとも、死にたかったはずはない。死ぬことをよしとしない者が、死ななければならない社会、そんな教育は、はじめから間違っていたんだと思う。

まったく、なぜ日本が、ここまで戦わなければならなかったのか。なぜ、戦うための教育を徹底しなければならなかったのか。当時は——今もそうかもしれないが——世界全体がどこかおかしかったのではないか。二次にわたる世界大戦が、支配し抑圧することへの欲求や、人間の戦う本能、その他諸々のおぞましい感情を、強化してしまったのではあるまいか。国民の命を預かる国家が、国民を戦争に総動員する。国家が国民の生命を保証できないのなら、その存在に意味はないはずだ。

「軍国主義こそは、日本を巻き込んだ大きな不幸だった。みんな、腹すかして死んだ。」水木しげるは自らを作品の中に登場させ、このことばで幕を下ろしている。まったくもって、彼の述べるとおりだ。昭和の歴史は、夥しい犠牲を払って、ようやく得た「もう戦争はしてはいけない」という巨大な教訓の歴史だった。まったく月並みな表現かもしれないが、再び過ちを犯してはいけない。

図書館と私

情報デザイン学部 2年 王 偉 静

私は図書館で勉強することが好きです。高校生のときは、図書館によく通いましたが、日本に留学してからは図書館で勉強する機会がありませんでした。しかし、この大学に入学して以来、図書館に行くことが多くなり、楽しい時間が過ごせるようになりました。

大学の図書館には留学生のための地元の新聞コーナーがあり、たくさんの留学生が集まる憩いの場所になっています。いつも、留学生が地元の新聞を読んでいる姿が見られます。私もこのコーナーをよく利用し、国の情報を得ています。故郷から離れていても国のことがよくわかります。しかも、新聞コーナーの隣には情報検索コーナーもあります。そこにはOPAC専用のパソコン2台と、インターネット検索用のパソコンが6台あります。自分が調べたい国の情報などをすぐアクセスできるし、とても便利です。私は大学に入る前まで、国のことが知りたくてもなかなか知ることができませんでした。しかし、大学の図書館で新聞を読んだり、インターネットで調べたりすることで自分の生活が楽しくなりました。前の一人暮らしの寂しさも癒されました。

また、この図書館は資格、就職試験関連図書コーナーもあり、日本語の勉強にとっても役立ちます。私は最初、日本語能力試験についてあまり自信がなかったので受けませんでした。しかし、図書館をよく利用するようになってからは、日本語能力試験を受けるための勉強も始めました。このコーナーには、たくさんの練習問題集が置いてあり、とてもありがたく思います。私は授業がない時間を使って図書館で日本語能力試験の問題集を一冊ずつやってみました。半年間努力して、ようやく日本語能力試験に受かりました。本当に嬉しかったです。

普通の日には図書館で本を読んだり、日記を書いたりしますが、期末試験が近づくと必ず図書館で復習をします。試験が近くなると緊張します。しかし、図書館に入るとなぜか不思議と落ち着き、勉強も自然にできるようになります。

私はこの図書館が好きです。もっと利用したいと思います。図書館のいい環境の下でよく勉強して、様々な本を読んで、自分の知識を増やして、将来、学んだことが活かせるように頑張ります。

図書館懸賞作品コンクールについて

今回は後援会からいただいた拠金を基に、募集作品を読書感想文だけでなくエッセイ、そのほかを募集対象とする図書館懸賞作品コンクールを実施しました。今回のような作品コンクールは、学生が本の感想や日頃の想いを文章にする習慣を身に付け、読書力や作文力を育てることとなるために行ったものです。その結果、先に紹介いたしました4作品が入選しました。そして、図書館のホームページでも紹介のように、2010年11月29日に審査委員会委員の方々の立会のもと表彰式を取り行いました。

図書館ホームページのリニューアル

2010年10月1日より、図書館ホームページをリニューアルしました。
(広島県緊急雇用対策基金事業で地域貢献事業活動の一環として行ったものです)
図書館ホームページは、<http://office.hkg.ac.jp/~toshokan>からご覧いただけます。
尚、大学のホームページ (<http://www.hkg.ac.jp>) の施設案内にある図書館から入ることができます。
使いやすくなった図書館ホームページを文献検索等でお役にてください。

トップページ

- 【 特徴 1 】 蔵書検索がホームページから入ることができる
- 【 特徴 2 】 2ヶ月の開館予定が一目でわかる
- 【 特徴 3 】 お知らせが見やすくなった
- 【 特徴 4 】 図書館だよりが読める

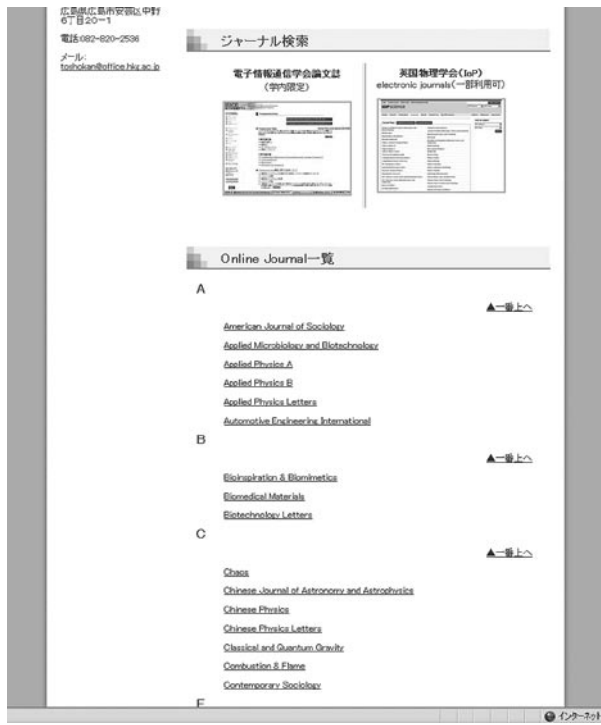


利用案内

- 【 特徴 5 】 学外の方の図書館利用案内が見やすくなった
- 【 特徴 6 】 「ライブラリーカフェ」や「グループ学習室」の説明を入れた

電子ジャーナル

【 特徴 7 】 電子ジャーナルが選択して使えるようになった



情報検索

【 特徴 8 】 論文検索が選択して使えるようになった



リンク

【 特徴 9 】 リンクを充実させた

平成22年度 図書館優秀利用者表彰について(ご報告)

本 館

平成22年度の図書館優秀利用者は、下記の学生24名に決定しました。尚、大学後援会より補助金をいただき、図書カードを進呈しました。

(平成22年4月2日～平成22年12月24日)

部門	順位	学 科	名 前	貸出冊数	部門	順位	学 科	名 前	貸出冊数
一般 図 書 部 門	1	現代社会学科	高雄 康弘	230	娯 楽 図 書 部 門	1	現代社会学科	清水 敬介	402
	2	工学研究科 (M)	牧野 将浩	145		2	情報デザイン学科	赤本 雄一	366
	3	工学研究科 (D)	今木 靖人	136(139)		3	情報デザイン学科	福場 祥貴	270
	4	工学研究科 (D)	細川 雄一	130.5(131)		4	総合工学科	馬場 和希	206
	5	現代社会学科	相模 雄太	91(94)		5	情報デザイン学科	松村 雄貴	203
	5	総合工学科	渡邊 将浩	91		6	総合工学科	岡田 光平	201
	7	工学研究科 (M)	小松 和紘	78.5(79)		7	バイオ・リサイクル学科	岡本 健吾	200
	8	総合工学科	瀧谷 勇司	54		8	総合工学科	米川 悟	174
	9	バイオ・リサイクル学科	兒玉 敏正	50		9	総合工学科	山崎 大輔	151
	10	工学研究科 (M)	久保田寛之	45.5(50)		10	総合工学科	末國 龍二	150
	11	現代社会学科	清水 夏海	45	一般図書部門の娯楽図書は1冊を0.5冊としてカウント () は貸出総冊数 (D) : 博士課程 (M) : 修士課程				
	12	工学研究科 (M)	稲坂 龍哉	43					
	13	工学研究科 (M)	関 建業	42					
	14	現代社会学科	李 斌	38					

短大分館

平成22年度の図書館優秀利用者は、下記の学生15名に決定しました。尚、短大後援会より補助金をいただき、図書カードを進呈しました。

(平成22年4月2日～平成22年12月24日)

部門	順位	学 科	名 前	貸出冊数	部門	順位	学 科	名 前	貸出冊数
一 般 図 書 部 門	1	自動車工学科	藤井 貴大	97(100)	一 般 図 書 部 門	9	自動車工学科	沖本 一馬	15(28)
	2	自動車工学科	泊野 良政	50		10	自動車工学科	近藤 翔太	15
	3	専攻科 (整備工学専攻)	中山 裕樹	43(75)		11	自動車工学科	木村 昂	15(35)
	4	自動車工学科	丹羽 貴大	28		12	自動車工学科	高畑 祐太	14
	5	専攻科 (整備工学専攻)	小倉 和誠	22(57)		13	自動車工学科	蔵本 直也	13(18)
	6	自動車工学科	池田 将	18		14	自動車工学科	扇山 恵人	12(21)
	7	自動車工学科	大田 崇史	17(49)		15	自動車工学科	沖田 明哉	12
	8	専攻科 (整備工学専攻)	松原 宏平	16(31)		娯楽図書は1冊を1/3冊としてカウント () は貸出総冊数			

今後も図書館のご利用をお待ちしております。

広島国際学院大学図書館発行

・本館 (工学部・情報デザイン学部・現代社会学部) 〒739-0321 広島市安芸区中野6丁目20-1

☎ (082) 820-2536

・自動車短期大学分館

〒739-0302 広島市安芸区上瀬野517-1

☎ (082) 820-3541

ホームページURL <http://office.hkg.ac.jp/~toshokan/>